

鹿島小学校における佐賀県小学校学習状況調査について

調査の趣旨

・全国的な義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育および教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ること。

○ 調査期日

・平成22年4月19日（月）20日（火）

○ 調査の対象および対象数

・鹿島小学校6年生 国語・社会・算数・理科 71名

調査の内容

(1) 教科に関する調査

国語A、国語B、社会、算数A、算数B、理科

(2) 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

○ 結果の概要

【教科に関する調査について】

・鹿島小学校の全体の正答率は、県と比較した場合以下のような結果となりました。

国語・・・国語Aは県よりやや下回っていますが、国語Bは上回っています。

社会・・・県よりやや下回っています。

算数・・・算数Aは県と同じ、算数Bは県を大きく上回っています。

理科・・・県を大きく上回っています。

これまで国語科では思考力・表現力の育成をめざした指導、算数科ではTT担当を中心とした少人数指導や習熟度別指導等の取組を行ってきています。国語・算数に関して言えば、主として「知識に関する課題」つまり「身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能」については、国語がやや不十分であり、算数は県レベルにあります。しかし、「活用に関する問題」つまり「知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な問題解決のための構想を立てて実践し評価・改善する力などのかかわる内容」の部分については、特に算数は大きく成果が上がっています。

社会科や理科に関しては、社会は県をやや下回っていますが、理科は県平均を大きく上回るよい結果となっています。

・今後は、本校の課題である興味・関心に力を入れ、「読み・書き・計算」などの基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着はもちろんのこと、習得した力を活用する場面を授業の中で設定するなどの授業改善を行っていきたいと思います。また、発達段階に応じながら、国語・算数の力を社会科や理科へ広げたり、家庭学習をの充実したりするなど家庭と連携・協力しながら取り組んでいきたいと考えています。

○ 国語〈A問題・B問題について〉

- ・国語Aについては、書くこと・読むことは県より高い結果を示しています。国語への興味・関心・態度、書く・読む能力も高いポイントをあげています。
- ・言語についての知識・理解の中で「接続語」や書写にわずかに課題が残っていますので、日常の学習で確実に定着を図らなければならないと考えています。
- ・無解答率では、「漢字を読む」「漢字を書く」が県より高かったです。漢字を曖昧に覚えていることが分かり、家庭学習等で定着するような手立ての工夫が必要です。また日常の国語科の授業でも、基礎的・基本的事項の確実な定着をめざし、習得した知識・技能を意図的に使うなど、定着する工夫を行っていくことが大切であると考えています。

- ・国語Bについては、「話す・聞く能力」以外のすべての項目において県平均以上のよい結果を示しています。無解答率では、「理由を明確にして書く」「聞き手を引き付ける様に話す」の項目が高かったようです。これは、実生活場面にも活かせる能力ですので、実際の場面等を通しての指導が必要であると考えられます。
- ・ただ粘り強く取り組もうという姿勢は伺え、本校が取り組んでいる日常の国語科指導において、最後まで何とか頑張ろうとする子どもたちが育ってきていることに自信を深めました。今後も、これまで習得した知識・技能を活用する力の育成をめざしながら授業改善に取り組んでいきたいと考えています。

○ 算数〈A問題・B問題について〉

- ・算数Aについては、県平均と同じ結果となりました。これまでに取り組んできている基礎的・基本的事項の確実な定着が図られていると考えています。また、無解答率も低く、粘り強く答えを出そうと頑張っている姿勢が見えます。
- ・課題としては、「円の分割」「二等辺三角形の定義や性質の理解」があり、子どもにより得意・不得意の様子が見受けられます。今後も、これまでのように基礎的・基本的事項の確実な定着をめざし、日常生活と結びつけた問題の提示や算数の楽しさを味わわせるような指導等に心掛けていきたいと考えています。

- ・算数Bについては、すべての項目で県平均を上回るよい結果となっています。これは、分かる楽しさを実感する授業取組の成果が現れているものと考えられます。
- ・無解答率が特に高いというは見られませんでした。特に記述式の問題に関してはすべてよい結果となっています。3つの円グラフから情報を読み取る問題は100%の正答率となっています。これは、問題提示等で生活に密着した問題や他教科との関連を考慮した問題を提示するなどの授業の工夫が生きていると考えられます。
- ・温度差がある児童一人一人に対応するためには、特に低位の児童に対しては、興味・関心を高め、問題を解いていく楽しさを、それ以外の児童に対しては算数よさが実感できるような授業の工夫を今後も継続していきたいと考えています。

○ 今後の取り組み

- ① 授業での積み残しをしないよう指導方法を充実させること、少しの時間を見つけての補充指導を充実することなどに力を入れ、更なる基礎的・基本的事項の確実な習得をめざしていきたいと考えています。
- ② 算数・国語の習熟のために日常の家庭学習の充実や学期末の「漢字・計算フェスタ」の充実など、個々の力に応じた支援を図っていききたいと思います。
- ③ 活用する力の育成のためには深い教材研究が必要です。子どもたちの「思考力」「表現力」をつけるために、国語・算数だけではなく、すべての教育活動の中で、意図的・計画的に実践を積み重ねていきたいと考えています。

【学習習慣や学習環境に関する質問紙調査について】

◇ 本年度教育目標の中で重点目標としている項目と県平均との比較から

- **基本的な生活習慣（早寝・早起き・しっかり朝ごはん）**
 - ・ 93%の子が7時までに起床していますが、夜11時以降に寝る子どもも15%以上いることから、夜更かしをし、睡眠を十分取っていない子どもがいることがわかります。
 - ・ 「朝ご飯」をほぼ毎日食べている割合は98%、早起き・睡眠等は県平均と同じ結果となっていて、夜更かしを除けば比較的基本的な生活習慣は身につけてきています。
- **自分のこと（自己肯定感、自尊感情の醸成）**
 - ・ やり遂げたときの嬉しさを感じていることや自分のよいところに自信を持っている割合が県平均と比べると高く、自信を持つ児童がここ数年増えてきていますが、将来への夢や目標を持っている割合がやや低いのが気になります。
- **家庭学習とテレビゲームやインターネットの時間**
 - ・ 家庭学習では、1日に勉強している時間、学習塾（家庭教師を含む）での勉強は全体的に少ないです。自分で計画を立てての勉強や学校の宿題・予習などよく取り組んでいますが、学校で学んだことの復習や苦手な問題、テストの書き直しなど次につながる学習に課題を残しています。
 - ・ テレビやビデオ・DVDの視聴時間が少ない子どももいますが、4時間以上の長い時間見たり聞いたりしている子どもは県平均と変わらず23%もいます。
 - ・ 携帯電話の所持やインターネットの利用は少ないです。
- **読書指導の推進**
 - ・ 学校（市）の図書館を利用する子どもの割合は高いようですが、毎日30分以上読書をしている割合は県平均よりやや低い傾向にあります。
- **楽しい学校生活**
 - ・ 友達との関係や他人に対する思いやり、また学校の決まりや友達との約束を守るなどの傾向は県平均と変わらずよい傾向にあります。
- **家庭での生活**
 - ・ 学校のことを家の人に話をしていない子どもの割合が40%以上もありやや問題です。

◇ この結果からわかること・今後取り組んでいきたいこと

- これまで以上に、「早寝・早起き・しっかり朝ご飯」運動への必要性を再認識し、家族での会食（団らん）の機会を増やしてほしいと思います。今後も「いきいき鹿島っ子」等を活用して、家庭と連携を図りながら継続的に取り組んでいきたいと思います。
- 学校生活については満足している様子がわかります。目標を持って生活をしていてとてもよい傾向にあります。子どもの自尊感情・自己肯定感を高めるためにも「褒める・認める」を学校も家庭も取り組んでいければと考えています。これからも学校に行くのが楽しいと考えて登校する子どもを更に増やしていきたいと思います。
- 課業日の家庭学習時間については、1時間以上勉強をしている割合が60%に満たない現実には厳しいものがあります。学校が休みの日の家庭学習時間については、1時間も勉強をしていない子どもが40%以上もいて問題です。休みの日であっても自分から進んで勉強する子どもにするためには、勉強の楽しさ、できたという達成感がエネルギーとして必要です。そのエネルギーを充填できるような声かけや賞賛などを行ったり、子どもへ対応したりするような努力を行っていききたいと思います。
- テレビやビデオの視聴時間については、親子で話し合っ家庭で視聴時間を決めるということも大事です。視聴時間が長くなれば、睡眠時間にも、また起床時間にも影響してきます。「いきいき鹿島っ子」を活用するなどして、規則正しい生活習慣確立へ向けて保護者との連携を図っていききたいと思います。
- 今年度は、家庭学習の充実のために、「音読」「漢字練習」「計算」だけの宿題ではなく、内容の精査を行い、個々の力に応じた課題の提供など取り組んでいきます。また、家庭学習時間を増やすためにも、家庭学習の仕方についての何らかの対策を取っていかこうと考えています。
- 携帯電話の所持やインターネットの利用は少ないということはいいいことです。インターネットについては、情報モラルなどきちんとした使い方の指導を今後とも続けていききたいと思います。
- 昨年度、本校の一人当たりの読書冊数は年間80冊でした。これは、朝の読書、PTA母親部やはばたきの会による読み聞かせなどが功を奏していると考えています。活字離れには歯止めがかかっていますが、よく読むことそうでない子の温度差も大きいので、一人一人の読書傾向を分析し、ジャンルに偏りがないように学年の発達段階や個に応じた読書の奨励を行っていききたいと思います。
- 地域社会へ関わりについては、学校ではまず地域の人たちへ元気よくあいさつをすることから始めています。地域で行われるゴミ拾い活動などには積極的に参加をさせ、地域の環境に目を向けさせたり、地域の一員としての自覚を促したりしていききたいと思います。
ガタリンピック、鹿島おどりなど鹿島市が行う行事や地区の伝統芸能などにも積極的な参加を呼びかけていきます。
これらの行事へ積極的に参加をさせることで、「ふるさと鹿島」のことが自分のこととして理解できると考えています。そして、鹿島の一市民として生活しているという自覚と「ふるさと鹿島」を誇りに思う心も醸成していききたいと思います。